

農業農村整備事業に係る負担のあり方有識者会議（現地調査）議事録

日 時：令和5年（2023年）9月21日（木）14：30～17：00

会 場：美唄市土地改良センター及び経営体豊葦地区

参加者：「出席者名簿」のとおり

議 題：「次第」のとおり

議 事：以下のとおり

（1）美唄市概要説明

○美唄市土地改良センター菅原副所長より説明

（2）JA 概要・基盤整備説明

○豊葦地区土地改良事業推進期成会会長高田会長及び進徳一心地区土地改良事業推進期成会会長土屋会長より説明

（3）質疑応答

小糸構成員）

・地区内において、基盤整備事業に参加しない・反対といったこともあると思うが、主に何がネックとなっているのか。

菅原副所長）

・年齢の問題や費用面の問題から参加しないといった理由はあるが、整備された農地を見て、事業実施中に途中から参加したいという話もよくある。

・地域全体として効果を発現するために、参加しないと考えている方を説得しながら進めている。

高田会長）

・後継者不足はやはり一番の問題。個としてではなく、地域全体として考えて欲しいと伝えているところ。

小糸構成員）

・将来を見据えた整備が重要と感じた。未整備によって、土地売価が下がったり売れ残ることもあると思う。

大貝構成員）

・現状、耕作放棄地はどのくらいあるのか。

菅原副所長）

・本市の場合は、農家の方々が意欲的で農地の受け手も多く耕作放棄地はほとんどない。

大貝構成員）

・転作について、エリア決めなどのルールはあるのか。

高田会長）

・基本的に個々の農家が作物を選択し、空知管内の農協で収量等を調整している。

大貝構成員）

・土地改良を実施した水田でも転作は行うのか。

菅原副所長）

・転作も行えるよう汎用性を持たせた基盤整備を行っている。

大貝構成員）

・水田と畑の基盤整備の方法や効果の主な違いは。

高田会長）

・管内の農家は、水田と畑で汎用性を持たせつつも、水田を基本に考えていると思う。

・長期間降水がなかったとき、タマネギや大豆のほ場に、過去整備した集中管理孔を活用し、下から水を浸透させるといったように、緊急的に対応できたケースもある。

大貝構成員)

- ・ 気候変動に対して、基盤整備で対応できると認識した。

小糸構成員)

- ・ 共同で農作業を行う取組等はあるか。

高田会長)

- ・ 農協の施設のライスセンターが市内にいくつかあるのでそこで一緒に作業することはある。
- ・ 農作業機械が高いので、ほ場面積があまり大きくない農家同士で機械の貸し借りも行う。
- ・ 機械利用組合が存在する地域もある。
- ・ 基盤整備によって、法人化が進む効果もある。

土屋会長)

- ・ 耕作者が減る中、必然的にまとまって営農していく必要がある。

武者構成員)

- ・ 国営事業と道営事業の違いは。

菅原副所長)

- ・ 大規模に整備する場合は国営事業を活用。

小糸構成員)

- ・ 道営事業に対し、PUによる支援のほか、美唄市として独自で支援しているものはあるか。

菅原副所長)

- ・ 美唄市としては特になし。

小糸構成員)

- ・ 農家が求める整備や負担、市町村財政などバランスが難しいところ。説明にもあったとおり、市の財政的にも厳しいところだと思う。

(4) 現地調査

- 経営体豊葦地区において現地調査を実施